



喜多埜

御旅所七夕祭のご案内

本年も七月六日～七日の両日にわたって、茶屋町の御旅所にて、七夕祭を斎行致します。七夕は大陸の牽牛織女（彦星と織姫）の伝説と日本古来の天棚機比売（あめのたなばたひめ）の伝説とが相まって生まれた信仰といわれ、技芸の上達、恋愛成就を願う日とされ、笹の葉に願い事を記した短冊を結び星に祈りを捧げました。

当神社の御旅所において執り行われる七夕祭は、京都の北野天満宮に七月七日に行われる「御手洗祭（みたらしさい）」に倣い、神前に書道具を並べ供え、氏子崇敬者をはじめ参拝者みなさまの学問書道の上達を願い、また、御手洗の字の如く、心身の清浄を祈願致します。また、末社に玉姫稻荷神社という縁結び、女性守護の神さまをお祀りする所以から、縁結びにも御利益あらたかなるといわれ、特に若い女性からの信仰篤く、毎年、七夕祭の日には大変な人出で賑わいます。当日は、夕方午後四時から短冊奉納（一枚百円）などの行事を開始いたします。夏の夜に、それぞれのお願い事を胸に、どうぞお参り下さい。

名称 七夕祭

日時 平成十九年七月六日～七日

午後四時～午後十時まで

場所 大阪市北区茶屋町十二番五号

網敷天神社 御旅所 境内

お問い合わせ 網敷天神社 御旅所まで

六月の二十四節季

日本には春夏秋冬の四季がありますが、この四季を太陽の運行に基き、現在の暦とも合わせて更に細分化したものが二十四節季で、一ヶ月を二季に分けています。

この六月には芒種（ぼうしゅ）と、夏至（げし）という名の二季があります。

芒種とは六月六日頃で、ちょうど梅雨入りの頃でもあります。芒とは「のぎ」とも読み、稲や秋などの偏（へん）である「のぎ偏」と同じ意味をもちます。この「のぎ」とはイネ科の植物の種子にあるトゲの総称で、芒種とはイネ科の種という意味です。古代の中国においては二期作のうち粟（あわ）をこの時期に種まきした事からこの名がつけました。（日本の稲の種まきは四月頃です）ちなみに、この時期に蜚（ひ）が飛び始めます。

夏至とは六月二十一日頃で、ご存知の方も多いでしょうが、一年で最も日中時間の長い日です。日本の場合は梅雨の最中なので、日の長さを感じにくいですが、北極では白夜となり、間違いなく北半球では最も日の長い日となります。しかし、南半球では逆転して最も日中時間の短い日となります。六月は光溢れる季節といえそうです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

